

研究課題	「地域づくりを推進するコミュニティソーシャルワークのスーパービジョンとシステム開発」
研究代表者	神山 裕美 (人間学部 社会福祉学科 教授)

### 1. 研究目的

地域共生社会実現に向けて、「包括的な相談支援体制の構築」や「住民主体の地域課題解決体制」を推進する、ソーシャルワーク機能が期待されている。地方自治体においても、地域福祉コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカーの配置が注目されており、その人材育成と継続的教育体制が求められている。本研究では、コミュニティソーシャルワーカーの事例への、スーパービジョン過程に基づき、効果的なスーパービジョンの留意点、及び具体的方法を提起する。さらに、コミュニティソーシャルワーク人材育成のスーパービジョン・システムを開発する。

### 2. 研究方法

平成 28 年 6 月～11 月までの間、社会福祉協議会で 9 人の社会福祉士資格を持つコミュニティソーシャルワーカーが担当した 9 事例について、1 事例 60 分程度のスーパービジョンを実施した。スーパーバイズは、熟練したスーパーバイザーが担当し、その過程は全回同組織のコミュニティソーシャルワーカーと管理職のみで共有した。

9 事例のスーパービジョン過程は録音し逐語記録を作成し、スーパーバイザーの重要な指摘と、それに対応する良い質問や応答を、逐語記録よりカードワークにより抽出し、小・中・大項目に分類した。さらに、分類した項目を研究メンバーで検討し、スーパービジョンの留意点、及び具体的質問例として整理した。そして、9 事例のスーパービジョン過程と留意点、具体的方法に基づき、社会福祉協議会で展開可能なスーパービジョン・システムを検討した。具体的研究日程は、(表 1)のとおりである。

(表 1)

6 月	第一回事例検討会とスーパービジョン
7 月	第二回事例検討会とスーパービジョン
8 月	逐語記録からの課題抽出と考察 一～二回の評価・計画修正研究会
9 月	第三回事例検討会とスーパービジョン
10 月	第四回事例検討会とスーパービジョン
11 月	第五回事例検討会とスーパービジョン
12 月	逐語記録からの課題抽出・考察 三～五回の評価・計画修正研究会
1 月	第六回 1～6 回の事例検討会振り返り
2 月	逐語記録・課題抽出・考察等
3 月	全体・事例・組織的運営体制まとめ研究会

### 3. 研究成果と公表

#### (1) 9 事例のテーマと概要

コミュニティソーシャルワーカー担当事例は、個人から集団、組織、地域支援まで、

全年代の複合事例や制度の狭間事例が含まれていた。特に、本研究のフィールドとなった地方自治体の特徴として、外国人人口が全人口の 7.8% (H26) を占めるため、外国人事例が 9 事例のうち 3 事例あった。

- ①「居場所と社会貢献の場としてのきんぎょサロンの運営と今後」：日系ブラジル人の独居高齢者の個別支援課題から地域サロンの形成過程。
- ②「外国にルーツをもつ子どもの学習支援と夕方以降独りで過ごす子どもの居場所づくり」：中国人を親に持つ子の学習と放課後支援。
- ③「認知症状が進み始めた一人暮らしの高齢女性への支援及び地域福祉サポーターと関係機関との連携について」：地域で孤立する高齢者への直接支援と社会資源開発。
- ④知的障害者が地域で安心して自立した生活をおくるための支援」：特別支援学校卒業後作業所利用する知的障害者の地域活動と参加の場。
- ⑤「ひとり親家庭や外国人家庭などで孤立している家庭に対する地域支援の進め方について」：アルコール依存の台湾人母と傷害事件を起こした中 3 長男への支援。
- ⑥「独居高齢者が所有する 3 つの不動産をめぐる諸々のトラブル」：支援拒否傾向のある富裕層高齢者への支援。
- ⑦「認知症の母と精神疾患を抱える娘への家族支援について」：古い高層住宅での孤立対応と地域共通課題へのネットワーク形成。
- ⑧「アルコール依存の当事者を抱える家族へのアプローチと、地域住民、関係機関の調整について」：各家族メンバーと家族全体への支援と、住民も含めた関係者間の課題共有や対応方法の検討。
- ⑨「サービス利用につながりにくい方への支援」：父亡き後、依存傾向のある母と暮らすパニック障害のある成人女性への就労支援

## (2) コミュニティソーシャルワークのスーパービジョン留意点

逐語記録分析より以下のような大・中項目のCSWスーパービジョン留意点が抽出された。(表2参照) さらに、これらの言語化や気づきをスーパーバイザーに促し、信頼関係を深める具体的質問例や伝え方について、熟練したスーパーバイザーのスキルの一部を抽出することができた。

(表2)

大項目	中項目
1. 事例把握の基本事項	1) 事例説明の簡潔さ
	2) SV では 1 対 1 の対話だけでなく他の CSW も参加
	3) ノーマティブニーズ・コンパラティブニーズ把握の促し
	4) 家族関係・社会関係の把握 (児童と親、成人息子・娘と親、配偶者、配偶者以外の男女関係、近隣)
2. 個別支援初期対応の重要性	1) 入り口 (インテーク時のアセスメントと見立て) で、かかわりを持ち始めた時のストーリーを整理する

	2) 初回介入が重要
	3) 既存制度や機能・役割のアセスメント
	4) 初期のニーズをまず把握
	5) 介入
3. グループ支援の要点	1) グループ形成も導入が重要、グループ支援導入時のきっかけづくり
	2) 支援される側でなく支援する側、与えられる側でなく与える側にたつグループづくり
	3) 地域共通ニーズのグループ活動を発信し、さらに同様ニーズを持つ者を集める
4. 地域住民やインフォーマルなつながり把握	1) 住民と関係性をアセスメント
	2) 協働の関係形成
	3) 情報共有への配慮
	4) 地域共通課題の投げかけは吟味して
5. 本人と家族への配慮	1) まずは本人と考え、1番そのサポートが必要な人の順位性から考えていく
	2) 相手への尊重
	3) 本人や家族と適度な距離感
	4) 家族介入は諸刃の刃
6. ナラティブアプローチ	1) 相手の価値観で相手の物語を聴き取る、
7. CSW と多機関連携のつながり	1) 各組織の任務、指示命令系統や組織文化を知り生かす。
	2) CSWが連携するメリットを提示できるか
	3) 専門性の高い機関ほど、部分しか見ない傾向
	4) 情報の伝え方、繋げ方、
	5) プロが判断することを把握する
	6) 医療システムとの連携等、戦略的に考えた方がよい。
	7) 各機関のベテランSWに相談できる人を持っていると良い
	8) 他専門職への尋ね方
	9) 多職種とCSWのアセスメントをすりあわせる
8. 地域共通課題と協働	1) 複数事例からの地域共通課題を意識する
	2) 個人をみてサービス評価し改善・開発する
	3) 縦組織を横につなぐ協働の課題
9. 支持性と率直性	1) 受容・共感的な支持
	2) 率直な指導
10. 障害児者や親との協働	1) 地域の障害者プログラムの不足

	2) 当事者から教わり、個別ニーズ対応だけでなく、障害者の地域共通ニーズ対応も考える
	3) 親と共に将来リスクへの予防対応
<b>11. 外国人支援</b>	外国人の価値観・生活文化の理解
<b>12. 知的・発達障害傾向あるが診断ないボーダー層の課題</b>	1) 生活困窮支援でのサービスにつながりにくい人の多さ
	2) 精神科病院、障害福祉課、保健所との戦略的連携
<b>13. アルコール依存とメンタルヘルス課題</b>	1) 本人だけでなく親への支援
	2) アルコール依存から回復過程の知識、介入プロセスを知ると先を見通せる
	3) 暮らしの中からアルコール依存を排除する
<b>14. 地域ニーズに応えるCSW体制の改善・開発</b>	1) CSW 取り組みの情報発信
	2) CSW 増員、地方自治体の相談体制充実の課題

### (3) スーパービジョン・システムの開発

本研究を行った社会福祉協議会は、社会福祉士をもつコミュニティソーシャルワーカーが23名いる。その内訳は、地区担当が8圏域に各2名で16名、生活困窮者支援事業担当が4名、生活支援コーディネーターが1名、チーフと課長が各1名である。コミュニティソーシャルワークは、歴史の浅い職種につき熟練者ばかりではないが、スーパービジョンにより相互に支え合い、23名の実践知を集約することで全体の力量を高めることもできる。そのため、スーパービジョンをより効果的で持続可能なものとするため、(図1)のようなスーパービジョン・システムを開発した。

### (4) 研究のインパクトと今後の課題

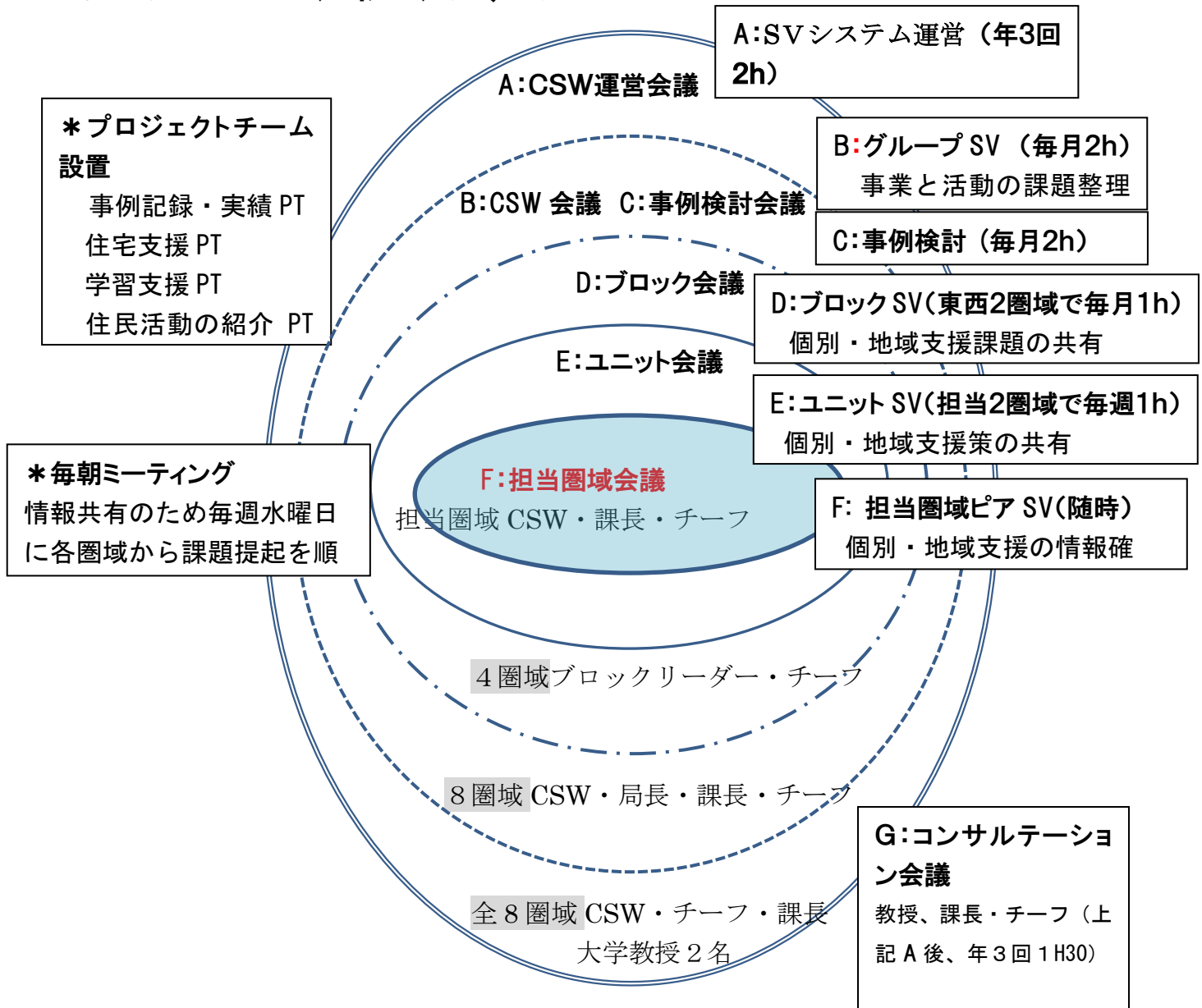
コミュニティソーシャルワークは、地域の福祉課題に対応するが、その視点や方法は、地域医療・保健、地域創生、まちづくり等多様な分野で活用できる。本研究のスーパービジョン留意点や具体的方法は、地域で活躍する人材養成に幅広く活用できる可能性がある。さらに、その人材を組織的に養成し、継続性や持続性を求める際には、スーパービジョン・システムの考え方が参考になると思われる。

本研究を基盤として、2018年度の科研費に研究代表による「共生社会実現への生態学的視点による地域基盤ソーシャルワークの人材養成」が採択された。本研究成果は、今後も実践現場で試行する中で過不足を検証し、研究に生かしていきたい。

### (5) 研究成果の公表

本研究は、2017年6月の日本地域福祉学会で「コミュニティソーシャルワークのスーパービジョン過程に基づく留意点と考察」として報告する。さらに学会での議論や指摘をふまえ、学会誌等への投稿を行う予定である。また、本研究共同研究者の所属する社会福祉協議会で、スーパービジョン・システム、及びスーパービジョンの留意点と具体的方法を人材養成に活用し、現場の指摘より改良を重ね普遍性を高めたい。

# CSWスーパービジョン・システム



(大竹宏和、田中慎吾作成)

## (SW 育成研修システム : OJT・Off-JT・SDS 推進体制)

